

第 2 学年 創る 科学習 指導案

2 年 1 組 指導者 五十部 大 暁

単 元 次は何が起こるのだろう？

1 本単元で子供が創出と受容、転移を行う価値

先を見通す力

2 本単元について

先を見通す力とは、次に起こりうることを予想する力である。予想の仕方として、子供が普段から無自覚に用いている「経験から類推すること」(AをしたときにBが起こった場面と似ているから、今回もAをするとBが起こりうると予想する)を扱う。本学級の子供たちは、学習において新たな課題に出会うと、解決方法を見出すことが難しい傾向がある。このような子供たちが、先を見通す力の創出と受容、転移を行うことで、「経験から類推すること」という予想の仕方を用いて、類似した課題を解決した方法が有効ではないかと予想し、解決に向けて行動できるようになるであろう。こうしたことが、学びの促進につながっていくと考える。

本単元は、次に起こりうることについて話し合うことをとおして、「経験から類推すること」という予想の仕方を見出し、活用する学習である。第1次では、積み木積みゲームを行う。なぜなら、積み木を高く積む作戦(Aをする)を考える過程は、学習場面において課題の解決方法を見出す過程と類似しているため、学習への転移が期待できるからである。積み木を高く積む作戦を考える際には、子供が作戦の根拠に着目することを大切にしたい。そうすることで、経験から類推して作戦の結果(Bが起こりうる)を予想していたことを自覚できると考えるからである。第2次では、生活や学習の場面において、「経験から類推すること」という予想の仕方を繰り返し活用することで、先を見通すことよきを実感できるようにしたい。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元でめざす子供の姿の実現を図る。

- ゲームの前に、積み木を高く積む作戦について話し合う場を設定する。そうすることで、経験から類推して作戦を考えることができるようにする。【創】
- 解決方法の根拠に共通することを見付けるよう促す。そうすることで、経験から類推して予想していたことを自覚できるようにする。【受】
- 「経験から類推すること」という予想の仕方を活用するよう促す。そうすることで、生活や学習の場面において、課題の解決方法を自ら見出すことができるようにする。【転】

3 主としてねらう各教科等への転移

学年	教科・領域	単元
第2学年	国語科	せつめいのしかたに気をつけて読もう「馬のおもちゃの作り方」
第2学年	算数科	10000までの数

国語科の学習で扱う教材文「馬のおもちゃの作り方」は、子供にとってこれまでの説明的な文章と異なる文章に見えるであろう。そこで、「文末表現に着目する」といった既習の読み方が有効ではないかと予想して読むことで、文章の内容を深く理解していくことができると考える。

算数科「10000までの数」では、これまでの学習より桁数は増えているが、既習の十進位取り記数法が有効ではないかと予想して数を表すことで、数の相対的な大きさや表し方を理解することができると思う。

4 指導計画(全5時間)

第1次 積み木を高く積む作戦について話し合う(2時間) 【本時1/2】

第2次 「経験から類推すること」という予想の仕方を活用する(3時間)

5 本時案 【令和4年10月22日 9:20~10:05 2年1組教室】

(1) ねらい 積み木を高く積む作戦について話し合うことをとおして、経験から類推して予想していたことを自覚できるようにする。

(2) 学習過程 ※一重下線は創出、二重下線は受容、破線は転移に対応する子供の意識

学習活動・学習内容	子供の意識	○教師の支援
<p>1 積み木を高く積む作戦について話し合う。(40分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験から類推すること ・経験から類推して予想していたことの自覚 <p>2 本時の学習を振り返る。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先を見通す力の活用への意欲 	<p>・今日は、積み木積みゲームをするのか。制限時間は1分間なのだって。</p> <p>・チャンスは1回しかないのか。それなら、作戦をしっかり考えたいな。</p> <p>どのようにすれば積み木を高く積めるのだろう。</p> <p>・<u>積み木を2個ずつ積む作戦はどうだろう。</u> <u>でも、本当にうまくいくか分からないな。</u></p> <p>A <u>作戦を考えてみたけれど、思い付かないよ。</u> みんなに聞いてみたいな。</p> <p>B <u>私は、一本の棒のように積む作戦がよいと思うよ。</u> <u>本をバラバラに積んでいったときに崩れてしまったことがあるからだよ。</u></p> <p>・ゆっくり積む作戦はどうかな。空き缶積み競争で急いで積んだときに、空き缶が崩れてしまったことがあるよ。</p> <p>・そういえば、私も急いで行動したときに、焦って失敗したことがあるな。</p> <p>・ぼくは積み木で土台を作ってその上に積む作戦かな。雪だるまを作ったときに、下を大きくしたら上が落ちなかったからだよ。</p> <p>A <u>あ、大きな砂山を作るときにも、下の方を強く固めたことを思い出したよ。</u></p> <p>みんなの作戦の理由で似ているところはないかな?</p> <p>・作戦の理由を見ると、これまでにあったことがたくさん出ているね。</p> <p>B <u>そうか、これまでにあったことから作戦を考えるとよいのか。</u></p> <p>A <u>それなら、幼稚園の箱積み競争のときのよ</u> <u>うに土台を強くすると高く積みそうだな。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・よし、考えた作戦で積み木を積みぞ。 ・やった、私は積み木を10個積むことができたよ。 <p>A <u>これまでにあったことを思い出すと、作戦を</u> <u>考えることができたね。このような力を、</u> <u>「先を見通す力」というのか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の時間は「先を見通す力」を使って、積み木をもっと高く積む作戦を考えたいな。 	<p>○ゲームの前に、積み木を高く積む作戦について話し合う場を設定する。</p> <p>そうすることで、経験から類推して作戦を考えることができるようになる。 【創】</p> <p>○子供が考えた作戦について、その根拠を問う。そうすることで、作戦の根拠として自分の経験を発言することができるようにする。 【受】</p> <p>○作戦の根拠に共通することを見付けるよう促す。そうすることで、経験から類推して予想していたことを自覚できるようにする。 【受】</p>

